

【五月の言葉（令和三年）】

近いものほど見えづらい

自分の姿ほど気づきにくい

さて問題です。特殊詐欺さぎ（振り込め詐欺等）に最もダメされやすいのは、どのようなタイプの人間だと思いますか？ 答えは

「自分は絶対にだまされない」と自信を持っている人なのだそうです。

「自分はダメされやすい性格だ」という自覚のある人は、家族や友人に相談しようという気持ちを持っていますから、周囲からのアドバイスもあり、被害を未然に防ぐことができます。しかし、絶対の自信を誇る人間はその過信から自分を疑う気持ちを持ちません。それで、まんまと犯人の術じゆつじゆう中にハマるといのです。

自身の姿が見えにくいのが人間です。鏡に映った姿を見て、髪や服装の思わぬ乱れに気づく瞬間があるように、思考や行動も客観的に指摘されて初めて、間違いに気づくことができます。

自己中心的な視点を「我見がけん」といいます。この見方が眼を曇らせ真実を覆い隠しおお、いつも自分は正しく相手を間違いにたしてしまっています。

親鸞聖人は、阿弥陀如来の「智慧」を「光」に例えて表現されています。どんなに優れた視力を持っていても、真つ暗な部屋の中では何も見えません。しかし、そこに一筋でも光が差し込めば、見えなかったものが自然と見えるようになります。